

樹木を糖尿病啓発のシンボルカラーの青色にライトアップした点灯式（大館市立総合病院駐車場）



糖尿病予防、輝く青

大館LC
14日まで 電飾3000個が点灯

国際糖尿病連合の定める「世界糖尿病デー」（11月14日）に合わせ、糖尿病の予防を啓発する「ブルーライトアップおおだて」の点灯式が4日、大館市立総合病院駐車場で行われた。駐車場南西端の木にLED（発光ダイオード）電飾約3000個が取り付けられ、シンボルカラーの青色に光り輝いている。14日まで。

大館ライオンズクラブ（LC、本間由紀子会長）主催。LCでは糖尿病に苦しむ人たちを支援するため、継続的に募金活動を行っている。取り組みを推進しようと市の補助金を活用したほか、企業にも協賛金を募り、昨年初めてライトアップを企画。さらにアピールするため、電飾を昨年

の1000個から3000個に増やした。

点灯式が行われ、会員や同病院職員、秋田看護福祉大、秋田職業能力開発短大の学生、大館鳳鳴高生徒会の生徒ら約40人が出席。森誠実行委員長は「糖尿病は2人に1人がかかる病気。市民への啓発のため、続けることに意味がある」と述べた。

カウントダウンの後、会員や来賓、高校生、大学生の7人がボタンを押すと、電飾が一斉に点灯。夕暮れの駐車場に鮮やかな青色の光が浮かび上がった。

点灯時間は午後4～10時。15～25日はクリスマスイルミネーションに変えて点灯させる。